



**Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラム
オンライン同窓会（テーマ：文化遺産の保全）の記録**

1. プログラム概要

【目的】過去に Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラムに参加した同窓生が、アンデス地域における日本の文化遺産保全の取組を学ぶことによって、各地域の文化遺産の存在に目を向けるとともに、我が国と中南米地域との連携について理解を深めることを主目的に実施しました。

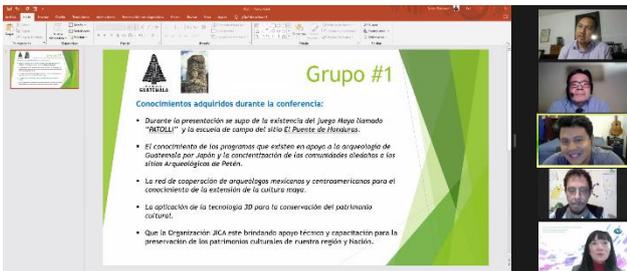
【参加者】 Juntos!!中南米対日理解促進交流プログラムの同窓生 (2015 年度～2021 年度の参加者) (アルゼンチン、ウルグアイ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ボリビア、メキシコの大学生・大学院生、社会人を含む) 計 10 名

【日程】

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応
2022 年 11 月 1 日 石川県	① 事業紹介 ② 講義 「グアテマラとホンジュラスの世界遺産登録地における金沢大学の活動」 講師：金沢大学 古代文明・文化資源学研究所長 教授 中村 誠一 氏 ③ 質疑応答 ④ 記念撮影 ⑤ グループ別プログラム（グループディスカッション）2グループ テーマ ・自国・地域の文化遺産について ・今回の講義での学び ⑥ 報告会	②講義について 現地事務所開設や協定の取り交わし、署名の経緯、出土品の状態や調査方法の紹介、研修事業実施の様子、現地プロジェクトでの活動内容や人材育成事業の紹介がされました。講義の中心が参加者の国または近隣国の文化遺産だったため、強い関心を持って熱心に聴講していました。 ③質疑応答について 以下の質問がありました。 1) 気候変動による文化遺産保全の影響を食い止めるプロジェクトの有無 2) 現在ホンジュラスやグアテマラで活動をしている研究者の人数 3) 地域開発プロジェクトにおける人材育成の継続状況 4) 3D モデル構造の完成度 5) 日本の文化財の知や経験をどのようにしてマヤ遺跡に当てはめたか ⑤グループ別プログラムについて

	<p>自国の文化遺産に思いを巡らせて情報を共有し合い、義から学んだことの振り返り、等、活発な意見交換が繰り広げられました。</p> <p>⑥報告会について 自国の文化遺産の紹介や、講義での学びについてそれぞれのグループが発表しました。</p>
--	---

2. 記録写真

	
<p>金沢大学教授・中村氏による講義</p>	<p>金沢大学教授・中村氏との質疑応答</p>
	
<p>報告会の様子</p>	<p>講師との記念写真</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

- ◆ エルサルバドル 大学生

日本がラテンアメリカで展開している様々な支援事業について知ることができてよかったです。先祖代々文化を継承することは日本の長所であり、文化を尊重している姿勢から、私たちは多くを学ぶことができます。
- ◆ ポリビア 大学院

遺産保存の意識を高めることは非常に興味深い上、大いなる挑戦だと思いました。
- ◆ アルゼンチン 高校生

日本と中南米との考古学的な交流や関わりを知ることができたことは有意義でした。日本における文化財保全についても知りたいと思いました。
- ◆ メキシコ 大学院生

諸外国の文化財保全の現状について知ることができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 講師

参加者が大変熱心だったので、参加者にあわせて講義自体をまとめるか、講義時間を長くするなどの調整を検討したいと思います。

5. 報告会での参加者の発表（抜粋）

■ グループ1：「今回の講義での学び」



・マヤのゲーム「PATOLLI」の存在や、El Puente de Honduras 遺跡でのフィールドスクールの様子などの紹介。

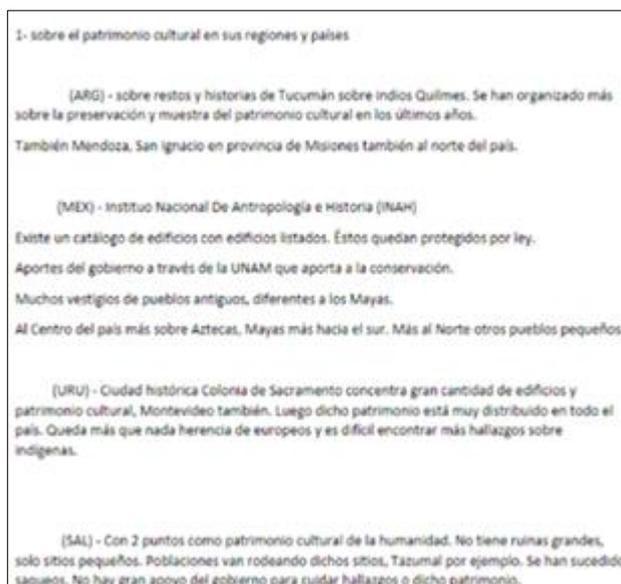
・日本によるグアテマラの考古学を支援するプログラムの存在と、ペテンの考古学的遺跡を取り巻くコミュニティの意識向上ための取り組み。

・マヤ文化の延長線上にある知識を得るための、メキシコと中米の考古学者

による協力ネットワークの紹介。

- ・文化遺産保存のための 3D 技術の応用。
- ・JICA が地域や国の文化遺産の保存のために技術支援や研修等の活動。

■ グループ2「自国・地域の文化遺産について」



1. アルゼンチン

・トゥクマン遺跡や キルメスインディアンの遺跡と歴史があります。近年、文化財の保存や展示に関する企画が多くなっています。北部ミシオネス州のサン・イグナシオやメンドーサも重要な遺産です。

2. メキシコ

・国立人類学歴史学研究所（INAH）
・法律によって保護されている建物がリストアップされた目録があります。メキシコ国立自治大学（UNAM）を通じた政府の支援によって、これらは保全されており、マヤとは違った古代民族の残存物も多々あります。

・国の中央部にはアステカ族が多く、マヤ族は南の方にいました。北では他の少数民族が存在し

ていました。

3. ウルグアイ

・歴史的な植民地サクラメントには、首都モンテビデオ同様、建造物や文化遺産が集中しています。遺産は国の至るところにあります。ヨーロッパ人の遺産ばかりで、先住民族が残したものに関する新たな発見はなかなか難しい状況です。

4. エルサルバドル

・世界文化遺産の特徴として2点あります。大きな遺跡はなく小さな遺跡が多いことと、タズマルのように、遺跡の周りに人口が集積していったことです。このような遺跡を守るための積極的な政府支援は今はありません。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）